

# そよ風にのせて

No. 2  
2007.3.3



皆さん、お元気ですか。  
ひょうご支部のお花見を明石公園で計画をしました。  
家族の会の輪を拡げ、親睦を深めようと思っております。  
友好を深めるために、ぜひご参加ください。



## ひょうご支部 お花見のご案内

日時：4月3日（火）12時00分～  
場所：明石城公園（JR明石駅）  
12時までにJR明石駅の北側広場に集合です。



- \*お弁当を準備しますので、3月末までに参加の連絡をお願いします。
- \*お弁当代として当日実費を集めさせていただきます。
- 飲み物は各自でご用意ください。

\*連絡先           ひょうご支部   078-251-1172  
                          西本妙子       078-882-1344



## 07.1 ひょうご支部集会の報告

今年になって初めての集会です。会場は私学会館。お名前とお顔がなかなか一致しないので、前回から名札をテーブルの前においてもらうことにしています。前回元気な姿を見せていた

だいた川本さんは、抗がん剤治療の後遺症で出席されていなく残念でした。世話人の西本さんも、年末に骨折されて入院されたということで欠席でした。次回にはお元気な姿を期待してい

ます。

簡単な自己紹介の後、ひょうご安全衛生センターの西山さんから「ゴム業界でも石綿被害がある」話を聞いて、住友ゴムに勤務されていた友達のご主人や、神戸シューズの製作に現在も携っている友人の姿がよぎる。中村實寛さんより胸膜中皮腫の治療薬アリムタの保険収載がみとめられたことの報告があり、心の中で拍手しました。

2つのグループに分かれてディスカッションに移りました。酸素ポンベを引いて奥様といつもご一緒のIさん。右隣にはMさんです。夫と勤務先も入院した病院も同じ。監督署に申請したのも同日です。左隣はDさんで、お父さんがこの度ドラマチックな認定を受けられました。

この日初めて参加されたNさんは、お顔の色がさえず気がかりでした。Iさんに色々と質問をされていました。本省協議に持ち込むべく書類を整えておられるとのことで、皆で支援しようと誓いました。

今回欠席のYさん姉妹のお父さん

や、Dさんのお父さんが認定されたのは、解剖し石綿小体が確認されたからと聞いています。そこで、とても言いにくいことでしたが、そのことを提案してみました。Nさんは「そんな暗い話はやめようや」、Iさんは「私はそのつもりです。遺言しています」と、明るく言って下さったので、私はホッとしました。お二人の受け取り方の明暗を分けたのは、Iさんは家族の会の常連で、Nさんは初めての参加。この違いでしょうか。Nさんにも何回も足を運んでもらっているうちに、理解していただけるのではと思いました。石綿が身体に及ぼす影響を労働者に広く知らしめもせず、労働者を犠牲にした国や企業に一矢報いるための手段としては、あまりにも悔しく悲しいことではあるのですが。

メディアも報道も少なくなってきた昨今、身近なところの隠れ患者、家族、遺族が救済されるよう働きかけなければと気持ちを新たにしました。

上野 眞三子



(06年11月、ひょうご支部集会)

## 「お母さんと結婚できて幸せだった」の声を胸に

西本妙子

目下療養中で、室内にいる時間が長い私に、窓からの陽射しが光の春を感じさせてくれます。

私の夫は、2001年5月末高熱と怠さで診察を受けるとき、その日の内に検査入院しました。1週間後、病院から「家族の方にお話があります」と連絡があり、「悪性胸膜中皮腫という症例の少ないガンの一種である」と説明があり、その時アスベストが原因であることも説明され、「建築関係の仕事に従事しましたか」と質問されましたが、学校卒業後50年間パン・ケーキ職人として働いてきました。夫とアスベストの接点がわからず、早期のガンと向かい合うことになりました。

1ヵ月後、手術のため転院、手術前に執刀医から完治する治療法がないことを、夫と共に告知されました。手術は胸膜、横隔膜の除去手術を受けました。手術後「95%組織は取れました」との説明に夫も私達も安堵いたしました。

手術後は定期的に検査を受けながら、職場復帰も出来て元気に働いておりましたが、1年半後に再発。主治医から「中皮腫の抗がん剤を研究されている先生がおられるので、受けてみませんか」と紹介状をいただき、抗がん剤治療へと転院。以来、抗がん剤治療を受けながら仕事が続けられ、働くことが夫の生きる力になっていた様に思いました。

抗がん剤治療も2年目に入る頃か

ら痛みと共に副作用が出はじめました。このまま体力を使い果たす治療を続けるべきかと悩みながら、ガンと向い障害を最小限にして痛みを除き生活の質を中心に在宅ですごすことを考えはじめました。

幸いにも近くにホスピス出身の先生が開院されておられ、抗がん剤と一緒に受け取っていた鎮痛剤を別にしていただけるように手配し、ペインクリニックの先生の方から痛み止めはもらうようになり、痛みがぐんと楽になりました。夫が心配していたモルヒネの話も、先生がきちんと痛みを除く事でいい生活が送れる事。モルヒネは健康な人には害になるがガンにはガンの痛み作用するので心配ないとしっかり説明して下さいました。

夫は1週間に1度の診察日、先生に自分の気持ちをきいていただけることを心待ちにしておりました。その頃より夫は自分のこれからの事を少しずつ話す様になり、ホスピスの申し込み、別れの時は家族だけで静かに家族葬にしてほしい等、話し合いました。

2004年6月29日、当日の朝食を終え、先生の診察を受けに行き、待っている間に呼吸障害をおこし、六甲病院へ転送。本人から延命治療は希望しない旨、先生に伝え、娘・息子・私にそれぞれに思いを伝え、酸素マスクのみに眠りに入りました。家族が見守っているなか、6月30日、68歳で静かに旅立ってゆきました。娘が「お父さん

よく頑張ったね。もう頑張らなくてもいいよ」と、穏やかな表情の夫に語りかけてくれました。結婚生活 40 年の間には色々な出来事もありましたが、「お母さんと結婚でき幸せだった。ありがとう」と夫が残してくれた言葉を心に暮らしておりました。

そして、1 年後 2005 年、家族の会の記事を見て、娘が連絡、安全センターの西山さん、家族の会の古川さんとお会いすることができ、労災申請のお話を聞くことができました。夫の闘病中、私が仕事に行く時、娘が替わってそばにいてくれていました。娘（看護師）に色々と病気のことを聞いていた様で、「なんでアスベストが原因や」とよく聞いていたと…。「お父さんに答えを出してあげよう」と申請に向けて証言・資料集めに安全センターの西山さんの力をおかりしながら動き始めました。

30 年～40 年前に勤めていた事業所

で、証言拒否をされましたが、安全センターの塚原さんのおかげで、オープン（釜）のメンテナンスの方から断熱材として使用されていたと証言をもらうことができ、一人では石綿が原因である証明を多くの方々のお力添えで、実現でき感謝の気持ちで一杯です。申請にこぎつけられたのも、人と人のつながりの結晶と身をもって感じました。

又、証言あつめの途中に挫折しかけた時「今は点だけど、これを線にしていきましょう」と励ましてくださったこと、ひょうご支部結成に参加した時の古川さんの挨拶の言葉「私が申請の時苦勞してきたことを、皆さん伝え助けになれば…」は忘れません。これだけ励ましになり、力になって頑張っただけこれたでしょう。これからも、もっと、もっと患者・家族の会が大きく力強く広がっていくことを心から願っています。



## 皆で、石綿新法一周年行動に参加しましょう

チラシを同封していますが、3 月 25 日・26 日の二日間、「アスベスト問題は終わっていない」と題し、シンポジウムと集会（国会へのデモ行進も含む）が行われます。急なお知らせですが、お時間を調整していただき、一緒に参加しましょう。参加を希望される方は、ひょうご支部（078-251-1172）までご連絡ください。

### ◇石綿新法一周年 ひょうご支部行動

日時：3 月 24 日（土）13 時～  
場所：JR 三ノ宮駅南 ダイエー前  
ご参加ください！  
\*チラシの配布を行います。

